

立命館大学アート・リサーチセンター 日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点
ARC Week 2015

[第2部]国際シンポジウム,[第3部]ワークショップ 参加報告

2015年7月25日[第2部] 発表者：武藤祥子

2015年7月26日[第3部] 発表者：井川繭子

立命館大学アートリサーチセンターでは、平成26年より文部科学省共同利用・共同研究拠点に認定されたことを受けて、日本文化の有形・無形文化財のデジタル・アーカイブを研究テーマとする共同研究を募集した。この共同研究プロジェクトに、当館は「演劇上演記録のデータ・ベース化と活用、ならびに汎用利用システム構築に関する研究」という研究課題で、平成26年度より採択され、本年度も引き続き活動している。

去る7月22日より7月28日の1週間、京都文化博物館別館ホール、京都の立命館大学ARC(アート・リサーチセンター)の2会場で立命館大学ARC主催の「ARC Week 2015」というイベントが、「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」の活動の一環として開催され、当館スタッフの武藤祥子が活動内容の報告、井川繭子が資料登録のデモンストレーションを行ってきた。

■7月25日(土)

ARC Week 2015 [第2部] 国際シンポジウム 会場：立命館大学ARC 発表者：武藤

「演劇上演記録のデータ・ベース化と活用、ならびに汎用利用システム構築に関する研究」

[第2部]国際シンポジウムでは、まず1階の多目的ルームで、センター長矢野桂司氏の開会挨拶、チューリッヒ大学の Hans Thomsen 氏の基調講演に続いて、ポスターセッションという事で、各研究課題の内容がB全サイズのポスターにまとめられ展示されている2階会場に移り、参加者が担当者から各々説明を聞いた。

その後再び1階のシンポジウム会場に戻り、各研究課題の代表者の発表が始まった。

まず前半は、本年度新たに採択された3つのプロジェクトの発表であった。近代京都の市街地の形成に関する研究や、東南アジアの舞踊の動きをモーションキャプチャシステムなどの技術を利用したデジタルデータと伝統的な記録方法を融合してデジタルアーカイブする技術に関する研究、中世の絵巻物に含まれる画像と語彙を検索する研究など、さまざまな研究対象に関するデジタルアーカイブの方法を開発する研究報告がなされた。

後半は昨年度から継続して採択されている研究課題による発表で、そのうちのひとつである松竹大谷図書館は、2014年度の成果と本年度の進捗、演劇上演記録の活用例や考証作業の概要や例について報告を行った。



当館が研究のメインテーマとしている演劇上演記録は、昭和 33 年の開館以来、主に東京や地方の大劇場で上演された演劇のタイトル・上演年月・劇場などの基本情報をカードに記載し演目別上演初日順に配列して管理してきた二次資料だが、平成 13 年から PC でのデータベース管理を始め、翌平成 14 年から過去の記録についてカードの画像を取り込んでのデータ化を始め、現在では全ての記録について基本情報を入力する作業が完了している。

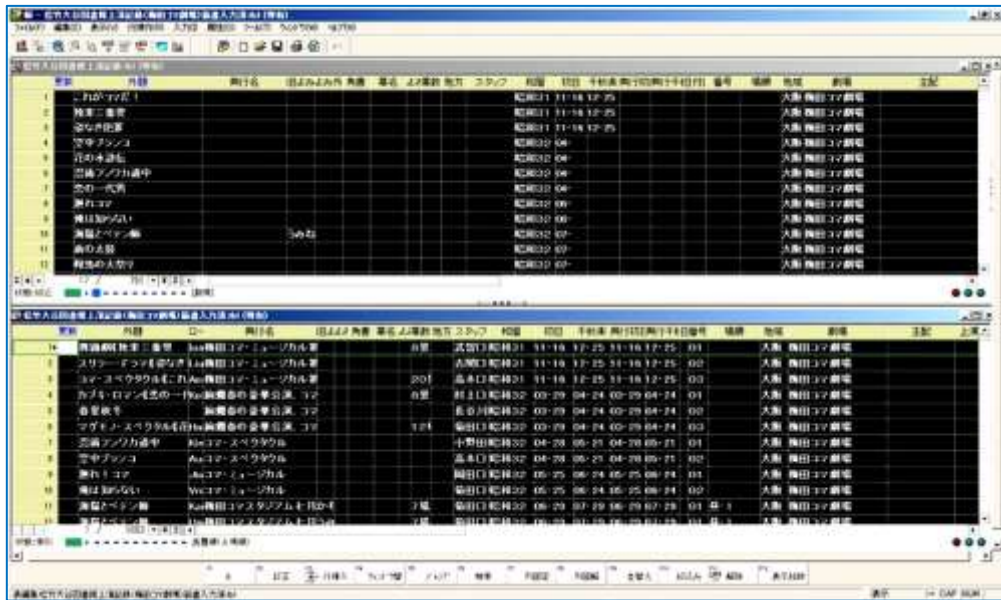
昨年度より継続して行っている共同研究は、立命館大学 ARC の協力を得て、この演劇上演記録のうち、カード時代の過去のデータの精度を上げるための考証作業である。

2014 年度は劇場別の考証作業として、新宿コマ劇場、梅田コマ劇場、京都座の記録について考証を終えた事を報告した。またその他にジャンル別の考証作業として「新派公演」に関する記録の考証作業を重点的に行った事について報告し、今後データベースを構築して、新派公式 HP (<http://www.shochiku.co.jp/shinpa/>) 上で公開する予定について説明した。

演劇上演記録の活用例としては、上演記録データベースが所蔵資料の整理登録やレファレンスなど日常業務に大変役立っており必要不可欠なこと、また当館が演劇上演記録を基にして、歌舞伎座や京都南座などの歌舞伎公演の筋書に掲載される演目別の上演年表の作成や、『演劇界』別冊として発行された『十八代目中村勘三郎 芸の軌跡』など俳優の出演記録を作成していることを紹介した。

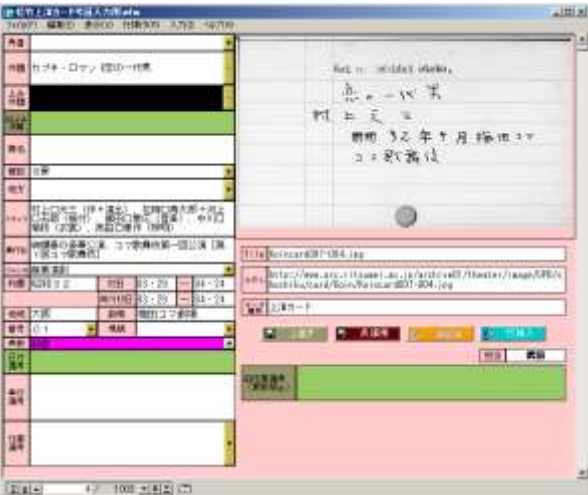
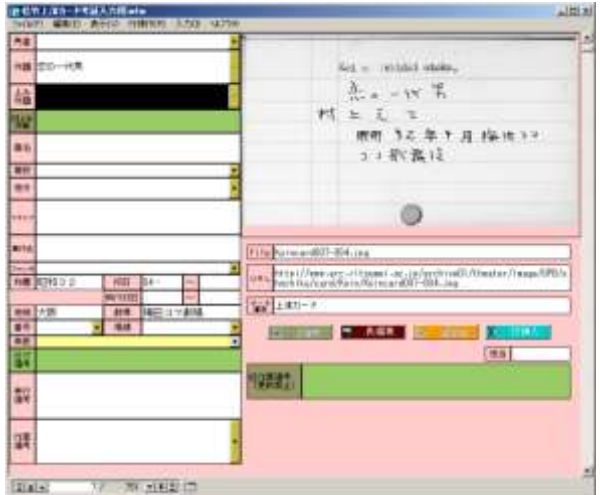
発表時間は 20 分と短かったものの、考証作業で追加されたデータの例や考証に使用した資料などについても説明を行う事が出来た。

演劇上演記録のデータベース画面
(上)考証前 (下)考証後



考証作業前のデータ

考証作業後のデータ



考証作業後には、角書 幕数 スタッフ 興行名 ジャンル 番号(上演順) 初日 楽日等の情報が追加されている

発表会場内には、各研究課題に関連した資料が一部展示されていた。当館からは、昨年 READYFOR?で実行したクラウドファンディングにより資金を募り、現在立命館大学 ARC でデジタル化の作業を行っている 5 千枚の芝居番付のうち、3 点を展示に提供した。



■7月26日(日)

ARC Week 2015 [第3部] ワークショップ 会場：立命館大学 ARC 発表者：井川

「演劇上演記録データベースを応用した蔵書管理システムの運用事例」

[第3部] ワークショップは、7月26日より28日の3日間にわたり立命館大学の各会場に分かれて、それぞれの研究会がいろいろな企画を行った。当館が参加したのは、26日 ARC の多目的ルームで行われたが、まず遺跡などの現地調査を3次元のカメラで撮影し、デジタル技術によって立体的に記録する方法についての発表から始まり、次に ARC が運用している浮世絵データベースの改訂を、参加者のパソコンにデモ用のプログラムをインストールして実際にやってみるということが行われた。

続いて発表した松竹大谷図書館は、実際に当館の演劇上演記録を使って、演劇資料を蔵書として登録する作業のデモンストレーションを行った。



演劇上演記録を管理しているデータベースと、蔵書を管理しているソフトは別だが、ワークショップでは蔵書を管理するソフトの書誌取込の機能(インポート機能)を使って上演記録データを応用したデータを取り込み、蔵書登録にも利用していることを説明した。しかしパソコンの画面上でデータ操作をするだけでは実感が薄いだろうということで、当館の所蔵する歌舞伎の上演台本や筋書(公演プログラム)、舞台写真をいくつか持参して展示し、ワークショップの参加者に実際に手に取って見ていただいた。

演劇資料を所蔵している機関のなかでも、このような興行の度に制作者から直接入ってくる公演関係の資料を蔵書として登録しているのが、当館の特徴であり強みである。参加者の中には演劇関係の資料を取り扱うことの多い研究者の方々が多かったのだが、やはり資料そのものへの関心は高く、こちらが思っていた以上に資料についての質問も多く寄せられた。



演劇上演記録データベースを蔵書のデータとして応用することで、効率的な資料登録作業ができるという利点があると同時に、蔵書管理ソフトのバージョンアップによる変更に合わせて、書誌取込のプログラムも改訂しなければならないなど、実際に運用してみてもわかる事例も挙げて説明をした。

思っていたより説明が長引き、予定の時間を過ぎてしまったが、日頃さまざまなデータベースを作成している参加者からは、将来の運用についてのアドバイスなども頂戴できてよい経験を得ることができたと思う。

■ 演劇雑誌 ■

- | | |
|---|--------------------------|
| 『Confetti』2015年 AUGUST, SEPTEMBER | 『歌舞伎 研究と批評』2015年(54) |
| 『Confettiかわら本』2015年7月号 | 『喝采』2015年11月号 |
| 『JPL』2015年 Summer No. 58 | 『国立演芸場公演ガイド』平成27年8月号 |
| 『SePT倶楽部 information』
2015年7月号 | 『座・高円寺』No. 13 |
| 『あぜくら』平成27年7月号 | 『人形劇のひろば』110号-117号 |
| 『コメディアン』644号-652号, 654号-658号 | 『長唄』117号 |
| 『シアターガイド』2015年9月号 | 『伝統文化新聞』2015年(110号), 暑中号 |
| 『ステージぴあ』2015年7+8月号(19) | 『銅鑼ニュース』94号-102号 |
| 『つどい』42号, 43号 | 『日本演劇協会会報』331号-338号 |
| 『テアトロ』2015年7月号臨時増刊号演劇名鑑
2016年度版, 8月号 | 『日本演劇興行協会会報』2015年(48号) |
| 『ほうおう』2015年7月号, 8月号 | 『日本芸術文化振興会ニュース』平成27年8月号 |
| 『ミュージカル』2015年7月-8月号 | 『日本照明家協会誌』2015年7月号 |
| 『みんなとプーク』No. 241-No. 252 | 『日本舞踊』67巻8月号 |
| 『ラ・アルプ』2015年8月号 | 『日本舞踊協会報』2015年7月 |
| 『演劇ぶっく』2015年8月号 | 『邦楽の友』平成27年8月号 |
| 『演劇界』2015年9月号, 特別付録「最新歌舞伎
俳優名鑑」 | 『民藝の仲間』664号-674号 |

■ 映画雑誌 ■

- | | |
|--|---|
| 『FLIX』2015年8月号 | 『映画時報』2015年7月号 |
| 『SCREEN』2015年9月号, 付録フォト&サイ
ンコレクション集 | 『映画秘宝』2015年8月号, 9月号 |
| 『キネマ旬報』2015年8月上旬号, 8月下旬号 | 『映画論叢』2015年(39号) |
| 『シナリオ』2015年9月号 | 『衛星劇場プログラムガイド』2015年8月号 |
| 『シナリオ教室』2015年8月号 | 『活狂』No. 151-No. 161 |
| 『ドラマ』2015年8月号 | 『松竹(社報)』2015年(188号) |
| 『ピクトアップ』2015年8月号 | 『東映キネマ旬報』2015年夏号 Vol. 25 |
| 『ムービー・スター』2015年月号 Vol. 191 | 『日経エンタテインメント!』2015年7月号, 8月号 |
| 『ロケーションジャパン』2015年8月号 | 『日本映画テレビプロデューサー協会会報』
No. 427-No. 436 |
| 『映画テレビ技術』2015年8月号 | 『文化通信ジャーナル』2015年8月号 |
| 『映画芸術』2015年夏号(452号) | 『友 I w a n a m i H a l l 』2015年夏号 |

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『リアル 鬼ごっこ』	○	○	○		

■ 映画プログラム ■

- | | | |
|--------------------------------|-------------|------------------------|
| 『地獄でなぜ悪い』 | 『人生スイッチ』 | 『ページ ページ:アナーキー』 |
| 『悲しみの忘れ方 DOCUMENTARY of 乃木坂46』 | | 『バケモノの子』 |
| 『ラブ&ピース』 | 『ザ・レジェンド』 | 『攻殻機動隊 新劇場版』 |
| 『弱虫ペダル Re:ROAD』 | 『極道大戦争』 | 『グローリー 明日への行進』 |
| 『海街diary』 | 『インサイド・ヘッド』 | |
| 『チャイルド44 森に消えた子供たち』 | | 『ハイキュー!! 終わりと始まり』 |
| 『ターミネーター:新起動 ジェニシス』 | | 『アベンジャーズ エイジ・オブ・ウルトロン』 |

(新着資料案内 続き)

■ 松竹系 7月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『南総里見八犬伝 芳流閣屋上・円塚山』	○	○		
	『与話情浮名横櫛 見染め・源氏店』	○	○		
	『蜘蛛絲梓弦』	○	○	○	○
	『一谷嫩軍記 熊谷陣屋』	○	○		
	『通し狂言 怪談牡丹燈籠』	○	○		
新橋演舞場	『阿弓流為』	○	○	○	○
松竹座 (大阪)	『御存鈴ヶ森』	○			
	『雷船頭』			○	○
	『ぢいさんばあさん』	○			
	『通し狂言 絵本合法衛 立場の太平次』	○			
南座(京都)	『舟木一夫シアターコンサート』			○	○
	桂米朝一門会			○	○
	『喜劇 有頂天旅館』			○	○
	南座 夏休み特別舞台体験				○
巡業(東コース)	『双蝶々曲輪日記 引窓』	○			
	『四代目中村鴈治郎襲名披露口上』			○	
	『連獅子』	○			
巡業(中央コース)	『天衣紛上野初花 河内山』	○			
	『藤娘』			○	
	『芝翫奴』				

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

エビス駅前バー	6月	EMUKICHI-BEATひとり芝居企画『Fight Alone 5th story』プログラム
大阪新歌舞伎座	6月	『芸能生活35周年記念コロッケ特別公演』プログラム
	7月	『初座長公演 福田こうへい特別公演』プログラム
吉祥寺シアター	7月	青年団『冒険王』 青年団+第12言語演劇スタジオ『新・冒険王』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	6月	ラッパ屋『ポンコツ大学探検部』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	7月	劇団民藝『黒い雨 八月六日広島にて、矢須子』プログラム
国立劇場小劇場	6月	『伝統芸能の魅力』プログラム 『石見大元神楽』プログラム 『文楽若手会』プログラム
国立劇場大劇場	7月	歌舞伎鑑賞教室『義経千本桜』プログラム
国立文楽劇場	5月	『新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会』プログラム
	6月	『文楽鑑賞教室』プログラム 『文楽若手会』プログラム
座・高円寺1	6月	とくお組『コロッセオ・ミュージカル‘80』プログラム
ザ・スズナリ	6月	流山児★事務所『新・殺人狂時代』プログラム、台本
	7月	玉造小劇店『ひとり、独りの遊戯』プログラム、台本
		ジャブジャブサーキット『さよならウィキペディア』プログラム
サンモールスタジオ	7月	三田村組『父との夏』プログラム
シアターオーブ	7月	ブロードウェイ・ミュージカル『天使にラブ・ソングを… (シスター・アクト)』プログラム
シアタークリエ	6月	『おもろい女』プログラム
	7月	『音楽劇ライムライト』プログラム

(新着資料案内 他社演劇公演資料 続き)

下北沢駅前劇場	6月	ヨーロッパ企画『イエティ#10俺の白飯を超えてゆけ!!』プログラム
	7月	ふくふくや『テキ屋の子供』プログラム
下北沢ギャラリー	6月	演劇ユニット トロ・テ・トロ『peten』プログラム
下北沢「劇」小劇場	7月	海市ー工房『人魚の森』プログラム
新国立劇場小劇場	6月	『TABU シーラハ「禁忌」より』プログラム
スタジオM	7月	『卵の中の白雪姫』台本
SPACE雑遊	7月	『ゴールデン街青春酔歌』プログラム
中日劇場	7月	『吉幾三納涼公演』プログラム
天空劇場	7月	『十一代目桂文治独演会』プログラム、ポスター
東京芸術劇場プレイハウス	6月	『京劇西遊記2015 二人悟空真贋争』プログラム
	7月	『障子の国のティンカーベル』プログラム
東京芸術劇場シアターイースト	7月	ベッド&メイキングス『墓場、女子高生』プログラム
東京グローブ座	6月	シティボーイズファイナル『燃えるゴミ』プログラム
中野ザ・ポケット	7月	ワンツーワークス『イチエフプレイズ』プログラム、台本
日本橋劇場	7月	えいげき亭『古今亭菊之丞古今亭文菊兄弟会』ポスター
ニッポン放送イマジン・スタジオ	7月	錦織一清QTプロジェクト『あゝ同期の桜』プログラム
俳優座稽古場	7月	劇団俳優座『詩人かたぎ』プログラム、台本
博多座	7月	『ミュージカル レ・ミゼラブル』プログラム、ポスター
北とぴあペガサスホール	7月	劇団キンダースペース『赤い鳥の居る風景』プログラム
パルコ劇場	6月	『メアリー・ステュアート』プログラム
明治座	7月	『山川豊・水森かおり特別公演』プログラム、台本

≫≫ 資料提供 (2015年6月~7月)

※許可を得た方のみ掲載しております

展示

- 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム 2015年7月24日より28日
辻番付『オセロ』(明治36年3月20日浪花座)と『鼠小紋春着雛形』(明治24年1月8日歌舞伎座)と『真珠夫人』(大正9年10月28日末広座)を、ARC Week 2015の資料展示に提供

出版

- 『演劇界』2015年8月号 2015年7月5日 演劇出版社
GHQ 検閲台本『仮名手本忠臣蔵』(昭和22年11月東京劇場)と、『勸進帳』(昭和21年6月東京劇場)を、渡辺保氏の文章「〈特集 歌舞伎の戦後七十年〉戦後歌舞伎の精神史」に提供
- 『松竹 ISSUE 三月社報188』2015年7月21日 松竹株式会社
図書『歌舞伎座 その紹介と解説』より「歌舞伎座食堂売店」の記事を提供

プログラム掲載

- 「六月大歌舞伎」2015年6月1日より25日 歌舞伎座
川尻清潭『歌舞伎俳句』を公演プログラムの記事に提供
- 「六月博多座大歌舞伎」2015年6月2日より26日 博多座
スチール写真『鎌倉三代記』(昭和22年9月南座上演)・初代中村鴈治郎のスチール写真『河庄』『石切梶原』『廓文章』『碁盤太平記』を公演プログラムの記事に提供
- 「公文協東コース松竹大歌舞伎」2015年6月30日より7月31日 地方巡業
スチール写真『双蝶々曲輪日記』(昭和2年12月南座上演・昭和29年11月亭国劇場上演)・初代中村鴈治郎のスチール写真『河庄』『藤十郎の恋』を公演プログラムの記事に提供
- 「七月大歌舞伎」2015年7月3日より27日 歌舞伎座
辻番付『怪異談牡丹燈籠』(明治25年7月14日より歌舞伎座上演)と、映画ポスター『お富と与三郎』を公演プログラムの記事に提供
- 『喜劇 有頂天旅館』2015年7月7日より23日 南座
北條秀司スクラップ『比叡風』よりスチール写真を公演プログラムの記事に提供

第12回アーカイブレコーディングセミナー 「ビジネス・アーカイブが企業を変える！」

日時：2015年7月23日

13:30～17:00

会場：富士フィルム株式会社本社

参加者：井川繭子

資料のアーカイブというと、昔の古いものを保存のためにデジタル化してとっておくというイメージがある。必要なことだがコストがかかるので、なかなか手が付けられないのが現状である。

今回は、富士フィルムとニチマイが主催するセミナーに参加した。

最初の報告は、東京海上日動火災保険（株）経営企画部図書室の櫻井由佳氏で、司書として企業内図書室の改善に取り組んだ事例と整備したデータの活用についてであった。

図書室に入ってくる資料を整理して利用者（この場合は社員）に提供するだけでなく、会社の歴史としての史料（図書や雑誌などの資料と区別して考える）を、活用できるように整備して、様々な要望に対応できる体制を作りあげた。

また図書室の予算は限られているが、史料のデジタル化の必要性を訴えたり、こちらから積極的に働きかけて活動することで、社内での図書館に対する評価が高まり、広報などの他部署との連携も生まれるなど、史料をアーカイブし活用することによる効果を実例に基づいて説明された。

印象に残ったのは、ただ多くの資料をデジタル化して画像を公開すればよいのではなく、それがどのような資料なのか、きちんと内容を理解した上で利用してもらえるように、例えばインデックスや説明を付与するなどしてデータベースを整備することが必要、という点である。将来的には狭く深く使えるアーカイブを充実させていきたい、とのことだったので、専門的な内容を扱うデータベースの場合はやはりその方向を目指すべきなのだと再認識した。

もう一つの事例として、アサヒグループホールディングス（株）広報部門兼研究開発部門で、様々な企画展示やイベント等を行うアサヒラボ・ガーデンの企画・運営を行っている藤澤聡子氏による報告があった。

大阪にあるアサヒラボ・ガーデンは一般に開放しているフリースペースで、食と健康に関わる様々なイベントや展示を行っているが、昨年はNHKの朝ドラ『マッサン』のモデルとなったニッカウキスキーの創業者、竹鶴政孝とその妻リタについて、社史とも関連づけて写真などの展示を行ったところ、入場者数が大幅に増え、各報道機関や自治体からも大きな反響があり、会社にとってはマーケティングやブランド戦略の面からも予想以上の効果を上げることができた。その経験からも、会社の歴史的資料をきちんと整備して社員がそれを活用することは、将来の会社の方針を決定する重要な要素となりうるものであり、活用するために行うビジネスアーカイブは決してコストではない、という結論に至ったそうである。

その他には、富士フィルム株式会社から、「重要データや歴史的価値ある資料 中・長期アーカイブのご提案」と題し、従来よりデータの保存に適するといわれている磁気テープやマイクロフィルムについて、さらに性能が向上してより多くのデータを長期保存できるようになった製品の説明があった。

また株式会社ニチマイからも「ビジネス・アーカイブの整備・保全、DB 構築支援と展示会企画支援の事例紹介」として、図書雑誌はもちろん、文書・写真・その他さまざまなものを一度に管理できるデータベースソフトの紹介と、それを使った展示会の事例の説明があった。

全体的に熱心な参加者が多く、アーカイブを単なる資料の保存として捉えるのではなく、企業の側にも戦略のひとつとしてビジネスの分野に積極的に活用していこうという流れができてきたように感じられた。



■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実に永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2015（平成27）年7月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

■ 夏期特別整理休館のお知らせ ■

平成27年8月15日（土）より

8月30日（日）まで

資料整理のため休館いたします。

8月31日（月）より通常通り開館いたします。

■ 編集後記 ■

▼とても暑い毎日が続きますね。東銀座界隈もアスファルトの路上から熱気が漂っております。昔の人は、打ち水をしたり、風鈴を吊るしたり、金魚鉢の金魚を愛でたりして、涼しくなる工夫をしていました。が、打ち水はともかく、聴覚や視覚で涼を得ようとする手段は、もう現代の暑さに対しては通用しないかもしれない。と思うこの頃です。でも、暑さには負けたくない！というところで、涼を求めて上野の東京芸術大学美術館で開催中の「うらめしや、冥途のみやげ」展を観に行ってみました。展示室内にずらりと並ぶ幽霊画は、薄暗い照明の効果もあって、なかなかひんやりとする空間でした。三遊亭圓朝の幽霊画コレクションを中心とした展覧会ですので、『東海道四谷怪談』や『怪談乳房榎』『怪談牡丹燈籠』など、歌舞伎でも馴染みの作品の絵も展示されております。印象に残ったのは、『東山桜莊子』の浅倉当吾の亡霊の絵です。部屋の色々なところから現れる当吾の亡霊の絵は、どこかしら滑稽で、幽霊なのに、なぜか生き生きとして見えます。展覧会は9月13日まで開催されていますが、まだまだ暑そうですから、10月くらいまで展示しても良いのではないかな、と個人的には思いました。ちなみに、同じくこの展示を観に行った当館スタッフFMさんは、「蚊帳も吊ってあってお化け屋敷みたいで良かった。後はひぐらしのカナカナ」という鳴声と、蚊取線香の匂いがしたらもつと良かったかな」と言っていました。「ひぐらしはともかく蚊取線香は美術館の環境的にどうよ……」というツツコミが、即起こったことは言うまでもありません……。

（あ）



- 利用案内 ●
- 開館時間 ●
平日午前10時～午後5時
- 休館日 ●
土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間
- ※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。
- 入館料 ●
無料
- 閲覧 ●
館内閲覧のみ
- 交通案内 ●
東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分